

* 広い意味での西洋中世（古代末期～近世、イスラーム、ユダヤ、中東アジアなども含む）に関する刊行された業績を、自己申告していただいたものです（氏名=五十音順）。

赤尾裕子（アカオ ヒロコ）

「典礼と音楽（5）ミサの中の聖歌（3）」『聖火』（フランシスコ会）220（復活祭号）、3-8頁

「典礼と音楽（6）第二バチカン公会議までの流れ」『聖火』（フランシスコ会）221（聖母被昇天祭号）、10-16頁

朝治啓三（アサジ ケイゾウ）

【翻訳】講演：ディヴィッド・カーペンター「マグナ・カルター—その歴史的意義、新視角、新史料」及びセミナー「ヘンリ3世治世 1216—1272年」—翻訳と解説『関西大学文学論集』68(4)、21-47頁

【翻訳】ステイーヴン・スレイター『図説 紋章学事典』創元社

【新刊紹介】HOSKIN, Philippa M., *Robert Grosseteste and the 13th Century Diocese of Lincoln, An English Bishop's Pastoral Vision*, 2019. Leiden. 『西洋中世研究』11、pp.178-9.

阿部俊大（アベ トシヒロ）

【翻訳】アントニ・アルバセーテ=イ=ガスコン「遺言状に見る15世紀バルセロナの解放奴隷たち(下)」『文化學年報』68、53-66頁

【翻訳】ジュゼップ・エルナンド「イスラームからキリスト教信仰へ—宗教を通じた奴隷の社会的統合プロセス—14世紀バルセロナの事例—」『人文學』203、39-63頁

【翻訳】マリア=フィロメナ・ロペス=デ=バロス「キリスト教徒とムデハル：中世ポルトガル社会における認識と権力」『人文學』204、41-62頁

有田豊（アリタ ユタカ）

【翻訳】「中世ヴァルド派詩編『崇高なる読誦』」『立命館言語文化研究』（立命館大学国際言語文化研究所）31(1)、251-270頁

【論考】「中世研究とフランス語教育—フランス語教員のための歴史文法」『Rencontres』（片山幹生、Georges Veyssière [佐藤吾郎]との共著）33、67-71頁

池上俊一（イケガミ シュンイチ）

『情熱でたどるスペイン史』（岩波書店）

「国王ジャンニーノ—ヨーロッパ後期中世の偽王伝説」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』50、223-241頁

「ワールドワイド・オブ・タカラヅカ 宙組全国ツアー公演『追憶のバルセロナ』～芸術・食・祭り・・・「情熱」で説き起こすスペイン～」『歌劇』（宝塚クリエイティブアーツ）9、126-129頁

池田真弓（イケダ マユミ）

「初期印刷本の装飾方法—四五九年マインツ出版『聖務の理論』を例に」青野純子、今井澄子、望月典子、望月みや編『移ろう形象と越境する芸術』（八坂書房）、337-369頁

石田隆太（イシダ リュウタ）

「何が個体化されるのか？——二人のスコラ学者による個体化論とその存在論的前提」『哲学・思想論叢』（筑波大学哲学・思想学会）37、1-13 頁

【翻訳】「トマス・アクィナス『「魂について」註解』第三卷第一章 試訳」『古典古代学』（筑波大学大学院人文社会科学研究所古典古代学研究室）11、1-25 頁（高石憲明との共訳）

【翻訳】「トマス・アクィナス『「魂について」註解』第三卷第二章 試訳」『倫理学』（筑波大学倫理学研究会）35、159-172 頁（高石憲明との共訳）

【翻訳】「ドゥンス・スコトゥス『「命題集」註解（オルディナティオ）』第2巻第3区分第1部第7問題 試訳」『筑波哲学』（筑波大学哲学研究会）27、104-128 頁（本間裕之との共訳）

伊藤亜紀（イトウ アキ）

「青はイタリアのものか、フランスのものか」『アカデミスト』1、10-11 頁

【書評】「池上英洋『レオナルド・ダ・ヴィンチ 生涯と芸術のすべて』（筑摩書房、2019年）」『pen』480、133 頁

井上浩一（イノウエ コウイチ）

「女性歴史家と戦争——アンナ・コムネナの思い」『フェネストラ』（京都大学大学院文学研究科西洋史研究室）3、1-8 頁、URI: <http://hdl.handle.net/2433/244268>

「アンナ・コムネニの生涯——日本語訳『アレクシアス』に寄せて——」、アンナ・コムネニ『アレクシアス』相野洋三訳（悠書館）vii-xxi 頁

今井澄子（イマイ スミコ）

『北方近世美術叢書 IV ネーデルラント美術の精華——ロヒール・ファン・エイクからペーテル・パウル・ルーベンスへ——』（単編著、ありな書房）

『移ろう形象と越境する芸術——小林頼子先生退職記念論文集——』（共編著、八坂書房）

“The Political Function of the Esther Tapestries: On the Image Strategy of Charles the Bold, Duke of Burgundy, for his Marriage Ceremony in 1468,” *Bulletin of Osaka Ohtani University*, 53, pp. 163-188.

「二代目ブルゴーニュ公ジャン無畏公の肖像」『大阪大谷大学 歴史文化研究』19、1-19 頁

「16世紀スペインにおけるフランドル・タピスリー——カール5世の注文による《名誉のタピスリー》の図像と機能をめぐって——」『スペイン・ラテンアメリカ美術史研究』20、13-28 頁

「マクシミリアン1世の権力とコレクション」『ハプスブルク展 600年にわたる帝国コレクションの歴史』国立西洋美術館、28-29 頁

「アメリカ・ルネサンス学会 2019 トロント」（深谷訓子と共著）『鹿島美術研究 年報』36号別冊、620-623 頁

伊能哲大（イノク アキヒロ）

『現代に挑戦するフランシスコ』（オリエンズ宗教研究所）

【共訳】「主日・祝日説教集より パドヴァのアントニウス」上智大学中世思想研究所編訳監修『中世思想原典集成 精選5 大学の世紀1』（平凡社）

岩波敦子（イワナミ アツコ）

【書評】「三佐川亮宏『紀元千年の皇帝——オットー三世とその時代——』」『史学雑誌』127(7)、63-69 頁

[書評]「アルフレート・ハーファーカンプ『中世共同体論—ヨーロッパ社会の都市・共同体・ユダヤ人』」『比較都市史研究』38、96-99頁

[彙報]「パトリック・ギアリ教授退職記念国際会議参加記」『西洋中世研究』11、199-201頁

内川勇太 (ウチカワ ユウタ)

Core and Periphery in Anglo-Saxon England: The Mercian Assemblies in the Kingdom of the Anglo-Saxons and the Formation of the English Kingdom. *East Asian Journal of British History* 7, pp. 83-104.

The Celestial Sign in the Anglo-Saxon Chronicle in the 770s: Insights on Contemporary Solar Activity. *Solar Physics* 294 (4), doi:10.1007/s11207-019-1424-8. (Hisashi Hayakawa, F. Richard Stephenson, Yusuke Ebihara, Christopher J. Scott, Matthew N. Wild, Julia Wilkinson, David M. Willis との共著)

[翻訳]「デイビッド・ロフ「ドゥームズデイ・テキスト・プロジェクト」」『西洋史学論集』56、26-33頁

大黒俊二 (オオグロ シュンジ)

[書評]「池上俊一『公共善の彼方に—後期中世シエナの社会』」『史学雑誌』128(2)、214-220頁

「書物史東西対話の可能性—『シリーズ〈本の文化史〉3 書籍文化とその基底』を手がかりに」(二〇一八年三月例会 書物・読者・読書の文化史)『歴史科学』237、15-19頁

「歴史の風 イタリアの中世祭り」と歴史家の社会貢献」『史学雑誌』128(11)、1672-1674頁

大貫俊夫 (オオヌキ トシオ)

Orval und Himmerod. Die Zisterzienser in der mittelalterlichen Gesellschaft (bis um 1350), Trier.

「中世ヨーロッパの修道院における看取り—ハイスターバッハのカエサリウス『奇跡についての対話』を手がかりに」本村昌文他編著『老い—人文学・ケアの現場・老年学』(ポラーノ出版)、501-527頁

大沼由布 (オオヌマ ユフ)

「百科事典と自然の分類—西洋中世を中心に」山中由里子・山田仁史編『この世のキワー〈自然〉の内と外』(勉誠出版)、55-68頁

岡北一孝 (オカキタ イッコウ)

「フェラーラ：具現化された理想都市」、「マントヴァ：ルネサンスの水都」、「フィレンツェ：ルネサンスの首都」、「アッシジ：天国の丘の聖都」、「ローマ：永遠の古都—カトリックの聖都」、『世界都市史事典』(布野修二編、昭和堂)、132-133頁、136-137頁、146-147頁、158-159頁、160-161頁

「コラム4 理想都市：その出発点ピエンツァ」「ピサ：川の港町から学術都市へ」、「コラム5 アルベルティ：万能の天才と地中海世界」、「ジェノヴァ：迷宮の港町と栄光の近代」、『地中海を旅する62章—歴史と文化の都市探訪』(松原康介編著、明石書店)、97-99頁、100-104頁、110-112頁、113-117頁

「パノフスキー『イコノロジー研究』」、「パノフスキー『イデア』」、「グラフトン『アルベルティ』」、「ザクセル『シンボルの遺産』」、『ルネサンス・バロックのブックガイド：印刷革命から魔術・錬金術までの知のコスモス』(ヒロ・ヒライ監修、工作舎)、34-35頁、36-37頁、44-45頁、48-49頁

尾形希和子 (オガタ キワコ)

「서양 중세의 유방: 풍요로움과 죄, 페티시즘과 고문사이에서」, 『성스러운 유방사 어떻게 가슴은

女性の‘ 얼굴’이 되었는가?』 이라영 해제/다케다 마사야 편저/김경원역, arte(아르테),225-242

「불을 끄는 젓가슴: 나폴리의 세이렌」, 『성스러운 유방사 어떻게 가슴은 여성의‘ 얼굴’이 되었는가?』 이라영 해제/다케다 마사야 편저/김경원 역, arte(아르테),279-284

(武田雅哉編『ゆれるおっぱい、ふくらむおっぱい 乳房の図像と記憶』岩波書店、2017年、韓国語版)
[書評] 「カルロ・ギンズブルグ『政治的イコノグラフィーについて』(みすず書房、2019年)」 図書新聞 3427、5頁

小澤実 (オザワ ミノル)

「第7章「ヴァイキング 海の覇者たち」 村井誠人・大島美穂・佐藤睦朗・吉武信彦『映画のなかの「北欧」: その虚像と実像』(小鳥遊書房)、40-43頁

「ブースマ『ギョーム・ポステル』(法政大学出版会)」「水野千依『イメージの地層』(名古屋大学出版会)」「伊藤博『怪物たちのルネサンス』(河出書房新社)」「ヒロ・ヒライ編『ルネサンス・バロックのブックガイド: 印刷革命から魔術・錬金術までの知のコスモス』(工作舎)

「2018年読書アンケート」『みすず』678、97-98頁

梶原洋一 (カジワラ ヨウイチ)

「中世末期におけるドミニコ会士の学位取得: アヴィニオン大学神学部を中心に」『史学雑誌』128(4), 432-456頁

「(特集 新書から広がる歴史学) 佐藤彰一『禁欲のヨーロッパ』ほか: 西洋文化の基層としての修道院」『歴史評論』829, 28-34頁

加藤玄 (カトウ マコト)

「エグ・モルトーカマルグ湿原にまどろむ中世城塞都市」松原康介編『地中海を旅する 62章』(明石書店)、152-156頁

「中世英仏関係における「海峡都市」カレー」『都市史研究』6、53-59頁

加藤磨珠枝 (カトウ マスエ)

「教皇庁と女性—崇敬と蔑視の構造」『西洋中世研究』11、2-7頁

「中世初期ローマ教会における女性の職務とその表象について」『西洋中世研究』11、8-30頁

[新刊紹介]Giuseppina Cerulli Irelli, Il Mondo dell'Archeologia Cristiana [Studia Archaeologica, 225].

『西洋中世研究』11、170-171頁

金沢百枝 (カナザワ モモエ)

「怪物たちの棲むところ 中世ヨーロッパの地図に描かれた怪物とその発生過程」山中百合子編著『この世のキワ〈自然〉の内と外』(勉誠出版)、109-123頁

「モデナ大聖堂「魚市場の扉口」のアーサー」渡邊浩司編著『アーサー王伝説研究 中世から現代まで』(中央大学出版部)、3-20頁

「日本におけるロマネスク受容と柳宗玄」『民藝』804、4-12頁

河原温 (カワハラ アツシ)

[書評] 「朝治啓三・渡辺節夫・加藤玄編『〈帝国〉で読み解く中世ヨーロッパ—英独仏関係史から考える—』」『西洋史学論集』56、37-40頁

「アルフレート・ハーファーカンフ『中世共同体論—ヨーロッパ社会の都市・共同体・ユダヤ人』」『史

潮』新 85, 170-179 頁

[合評会報告]「アルフレート・ハーファーカンフ『中世共同体論—ヨーロッパ社会の都市・共同体・ユダヤ人』』『比較都市史研究』38, 4-5 頁

[新刊紹介] Paul Oldfield, *Urban Panegyric & the Transformation of the Medieval City, 1100-1300*, Oxford UP, 『西洋中世研究』11, 248 頁

菊地智 (キクチ サトシ)

『マイスター・エックハルトと無名の信徒の対話』作品の成立背景と主題』『西洋中世研究』11, 143-163 頁

« Le chemin spirituel dans la vie de tous les jours chez Eckhart et les sœurs et frères de la vie commune » in M-A. Vannier (ed.), *Les chemins spirituels dans la mystique rhénane et la Devotio moderna* (Mystiques chrétiens d'Orient et d'Occident, 3), Paris: Beauchesne, pp. 177-192.

[書評] Hiroki Matsuzawa, *Die Relationsontologie bei Meister Eckhart* (Paderborn: Ferdinand Schöningh, 2018) 『中世思想研究』61, 161-165 頁

[書評] Bernard McGinn, *Mysticism in the Reformation (1500-1650). The Presence of God: A History of Western Christian Mysticism* 6/1 (New York: A Herder & Herder Book / The Crossroad Publishing Company, 2016), *Louvain Studies*, 42/1, pp. 90-91.

岸田菜摘 (キシダ ナツミ)

「イコノクラスム以降のビザンツと教皇権」『史観』(181)、86-110 頁

北館佳史 (キタダテ ヨシフミ)

「13 世紀末のシトー会レ・シャトリエ修道院におけるジェロー・ド・サルの記憶」『人文研紀要』(中央大学人文科学研究所) 92, 343-368 頁

[翻訳] 『オバジーヌの聖エティエンヌ伝』試訳 (一) 中央大学文学部『紀要』(史学) 276, 77-99 頁

久木田直江 (クキタ ナオエ)

'Mechtild of Hackeborn and Cecily Neville's Devotional Reading: Images of the Heart in Fifteenth-Century England', in *Revisiting the Medieval North of England: Interdisciplinary Approaches*, ed. Anita Auer, et al. (Cardiff: University of Wales Press, 2019), pp. 25-38.

「教皇庁の混迷を越えて—大陸(出身)の女性神秘家が導くイングランドの教会改革—」『西洋中世研究』11, 63-77 頁

工藤義信 (クドウ ヨシノブ)

Reinstalling Clerical Authority, Juridical and Didactic: The Unique Rearrangements of Book II of Peter Idley's *Instructions to his Son* in London, British Library, Arundel MS 20. *Medium Ævum* 88 (2), pp. 265-300.

久米順子 (クメ ジュンコ)

Beyond the Seas: A Medievalists Meeting in Tokyo (Allende los mares: un encuentro de medievalistas en Tokio / 海を越えて: 西洋中世学論集), Tokyo: Tokyo University of Foreign Studies-Institute for Global Area Studies (ed.)

[翻訳] アリシア・ミゲレス「ベアトゥス写本研究の現在: 近年の研究成果に照らして」『スペイン・ラ

テンアメリカ美術史研究』20、29-41 頁

[新刊紹介] Francisco J. Moreno Martín (ed.), *El franquismo y la apropiación del pasado. El uso de la historia, de la arqueología y de la historia del arte para la legitimación de la dictadura.* 『西洋中世研究』11

[新刊紹介] Javier Castaño (ed.), *¿Una Sefarad inventada? Los problemas de interpretación de los restos materiales de los judíos en España.* 『西洋中世研究』11

栗原健 (クリハラ ケン)

[書評] Peter Nesco, *Individuality in Early Modern Japan: Thinking for Oneself.* *Renaissance Quarterly* 72(2), pp.644-645.

[新刊紹介] Susan L. Einbinder, *After the Black Death: Plague and Commemoration among Iberian Jews.* 『西洋中世研究』11、175-176 頁

Karen Serres, *Bruegel in Black and White: Three Grisailles Reunited.* 『西洋中世研究』11、188 頁

黒川正剛 (クロカワ マサタケ)

「西欧近世における「呪者の肖像」—高等魔術師と魔女」川田牧人・白川千尋・関一敏編『呪者の肖像』(臨川書店)、79-98 頁

「魔女の身体、怪物の身体」山中由里子・山田仁史編『この世のキワー<自然>の内と外』(勉誠出版) 188-200 頁

桑原夏子 (クワバラ ナツコ)

「セスト・アル・レゲナ、サンタ・マリア・イン・シルヴィス修道院付属聖堂身廊交差部北壁装飾研究—福音書記者ヨハネ伝の再構成」『早稲田大学イタリア研究所：研究紀要』8、1-24 頁

「ムッジャ・ヴェッキア、サンタ・マリア・アッスンタ聖堂の説教壇研究」『鹿島美術研究』36、26-36 頁

児嶋由枝 (コジマ ヨシエ)

Genova e l'Emilia occidentale alla seconda metà del XII secolo: le maestranze antelamiche e i Cistercensi, Hortus Artium Medievalium, XXL-2, pp.506-513.

「中世シチリア王国の聖なる空間—パレルモ宮廷礼拝堂の天空と大地」『美術史研究』(早稲田大学美術史学会編) 57、133-142 頁

木場智之 (コバ トモユキ)

「内乱をめぐる言語—フランシスコ・デ・ビトリアの世俗権力論をめぐる政治思想史的文脈—」『一橋社会科学』(一橋大学) 11、33-50 頁

小林亜沙美 (コバヤシ アサミ)

「13 世紀ローマ教皇文書発給の実態—ルッカ伝来文書からの考察」『西洋中世研究』11、125-142 頁

「中世ローマ教皇史研究における現状と課題」『西洋史論叢』41、3-12 頁

小宮真樹子 (コミヤ マキコ)

『いかにしてアーサー王は日本で受容されサブカルチャー界に君臨したか—変容する中世騎士道物語』(岡本広毅との共編著、みずき書林)

『ドラゴンクエスト XI』における騎士道とアーサー王」岡本広毅・小宮真樹子編『いかにしてアーサー王は日本で受容されサブカルチャー界に君臨したか』（みずき書林）、183-201 頁

『ドラゴンクエスト XI』と聖杯の探求：現代日本のアーサー王伝説』『立命館言語文化研究』31(1)、203-216 頁

櫻井康人（サクライ ヤスト）

『図説 十字軍（ふくろうの本／ヨーロッパの歴史）』（河出書房新社）

「公会議決議録から見る「十字軍」の変容」『東北学院大学論集 歴史と文化（旧歴史学・地理学）』60号、1-25 頁

「1591～1600年の聖地巡礼記に見るイスラーム観・ムスリム観・十字軍観—後期十字軍再考（10）—」

『ヨーロッパ文化史研究』20、141-165 頁

「十字軍国家とマムルーク朝による農村世界を巡る攻防」『科学研究費成果報告書（2015～2018 年度基盤（B）（一般））中近世地中海史の発展的研究—グローバルな時代環境での広域的交流と全体構造—（研究代表者：学習院大学文学部教授・亀長洋子）』128-158 頁

佐々木徹（ササキ トオル）

「マリア論—聖アンセルムスとエアドメルス」『茨城キリスト教大学紀要』（茨城キリスト教大学）53、87-105 頁

佐々木博光（ササキ ヒロミツ）

【書評】（山本通著『禁欲と改善：近代資本主義形成の精神的支柱』）『西洋史学』267、87-89 頁

「コメント—中世都市の公共性とユダヤ人—」『比較都市研究』38

「西洋中世学会第11回大会シンポジウム報告」『西洋中世研究』11、190-192 頁

佐藤彰一（サトウ ショウイチ）

『歴史探究のヨーロッパ—修道制を駆逐する啓蒙主義』（中央公論新社）

【新刊紹介】Johannes PREISER-KAPPELLER, *Jenseits von Rom und Karl dem Grossen. Aspekte der globalen Verflechtung in der langen Spätantike, 300-800n. Chr.* 『西洋中世研究』11、186-187 頁

佐藤猛（サトウ タケシ）

「中世後期アンジュー公国におけるルネ・ダンジューの奉仕者集団～ボーヴォー家～（1）」『秋田大学教育文化学部研究紀要・人文社会科学』74、45-54 頁

【新刊紹介】「堀越孝一訳・校注『パリの住民の日記』I～III、八坂書房、2013年～2019年」『史学雑誌』128-6、97-98 頁

佐藤公美（サトウ ヒトミ）

【論文】「Il notariato di Merano nel secondo Quattrocento. A proposito del progetto di ricerca *Political Societies in Medieval Alps: Mountain Towns and Surrounding Localities (Fostering Joint International Research)*, *Studi di Storia Medioevale e di Diplomatica*, n.s. III (2019). (URL: <https://riviste.unimi.it/index.php/SSMD/article/view/12639/11835>)

（Hannes Obermair 氏との共著）

【論文】「イタリア同盟における戦争と諸国家システム—十五世紀イタリア半島の政治空間—」『歴史評論』838

佐野大起（サノ ダイキ）

[共訳]「第三ラテラノ公会議（1179年）決議文翻訳」（藤崎衛監修）『クリオ』33、39-56頁

[新刊紹介]「櫻井康人『図説 十字軍』」『史学雑誌』128(7)、86-87頁

[新刊紹介]「A. Karpozilos and G. Fatouros (eds.), *The Letters of Theodoros Hyrtakenos: Greek Text, Translation, and Commentary*, Athens, Kanakis Publishers, 2017, 400p., €21.20」『西洋中世研究』11、180-181頁

柴田隆功（シバタ タカノリ）

[共訳]「第三ラテラノ公会議（1179年）決議文翻訳」（藤崎衛監修）『クリオ』33、39-56頁

渋谷聡（シブタニ アキラ）

「近世ドイツ帝国における裁判と諸地域—18世紀帝国最高法院と陪席判事推挙の構造」『社会文化論集』（島根大学法文学部紀要）、1-10頁

下園知弥（シモゾノ トモヤ）

『聖母の美—諸教会におけるマリア神学とその芸術的展開』（編集、花乱社）

[翻訳]「西南学院大学博物館所蔵『リラのニコラウスによる聖句註解付きラテン語聖書』2」『西南学院大学博物館研究紀要』7、57-73頁

白幡俊輔（シラハタ シュンスケ）

「近世イタリア君主による軍事統制システムとその特徴—16世紀フェッラーラ公国の火砲製造所・砲兵隊の史料から—」、『社会文化史学』（社会文化史学会）62、1-20頁

[翻訳]アルド・A・セッティア『戦場の中世史 中世ヨーロッパの戦争観』（八坂書房）

甚野尚志（ジンノ タカシ）

「朝河貫一の1930年代以降の歴史研究」『朝河貫一と人文学の形成』（共編、吉川弘文館）26-61頁

「日本の近代歴史学を世界に開く—朝河貫一の「比較封建制論」の意義」『近代人文学はいかに形成されたか』（共編、勉誠出版）43-64頁

「歴史家・朝河貫一への旅（2）—朝河貫一の戦後の日記(1945-48年)を読む—」『エクフラシス—ヨーロッパ文化研究』9、1-12頁

「イエズス会の政治思想と暴政への批判—フアン・デ・マリアナの暴君放伐論とその中世的起源—」『早稲田大学大学院文学研究科紀要 第64輯』603-614頁

杉山美耶子（スギヤマ ミヤコ）

「ペトルス・クリストゥス作《金銀細工師の工房》」今井澄子編『北方近世美術叢書IV ネーデルラント美術の精華』（ありな書房）、41-72頁

Performing virtual pilgrimage to Rome: A rediscovered Christ crucified from a series of three panel paintings (ca. 1500), *Oud Holland* 132 (4), pp. 159-170.

[翻訳]「ブリューゲルのイタリア旅行—新たな視座による」今井澄子編『北方近世美術叢書IV ネーデルラント美術の精華』（ありな書房）、131-154頁

[新刊紹介]Lynn F. Jacobs, *Thresholds and Boundaries. Liminality in Netherlandish Art (1385-1530)* 『西洋中世研究』11、166-167頁

瀬谷幸男（セヤ ユキオ）

【翻訳】『カンブリア王メリアドクスのお物語—中世ラテン騎士物語』（論創社）

【翻訳】伝ネンニウス『ブリトン人の歴史—中世ラテン年代記』（論創社）

苑田亜矢（ソノダ アヤ）

「『エドワード証聖王の法』の成立と伝来—手書本と刊本（12世紀から現代まで）を中心に—」『熊本法学』147、219-236頁

【共訳】スティーヴン・スレイター『図説 紋章学辞典』創元社、155-181頁

高名康文（タカナ ヤスフミ）

「『新版ルナール』と『アーサー王の死』における運命の女神」『ヨーロッパ文化研究』（成城大学大学院文学研究科）38、73-89頁

「『狐物語』とトリスタン伝説、そしてアーサー王伝説」、国際アーサー王学会日本支部オフィシャルサイト「アーサー王伝説解説」（<http://arthuriana.jp/legend/reynard.html>）、18946字

高山博（タカヤマ ヒロシ）

Sicily and the Mediterranean in the Middle Ages (New York/ Abingdon, Routledge, Variorum Collected Studies 1076), 414 p.

「中世シチリアにおける異文化の併存と対立～ヨーロッパ、イスラム、ビザンツ～」『学習院史学』57、67-80頁。

瀧本佳容子（タキモト カヨコ）

「近代小説の先駆『ラサリーリョ・デ・トルメスの生涯』『三色旗』（慶應義塾大学通信教育部）826、3-9頁

【新刊紹介】H. Salvador Martínez, *El humanismo medieval y Alfonso X el Sabio: Ensayo sobre los orígenes del humanismo vernáculo*, 『西洋中世研究』11、182-183頁

【新刊紹介】Simone Pinet, *The Task of the Cleric: Cartography, Translation, and Economics in Thirteenth-Century Iberia*, 『西洋中世研究』11、185頁

田口正樹（タグチ マサキ）

「ドイツ騎士修道会对ミュールハウゼン市—14世紀ドイツの国王裁判権と教会裁判権」『法制史研究』68、85-121頁

【翻訳】フランク・レックスロート「ヨーロッパ専門家文化の中世的起源」『北大法学論集』69(5)、28-44頁

【翻訳】フランク・レックスロート「学問の身体と精神：1070年ごろ以降の初期スコラ学の学校についての観察」『北大法学論集』69(5)、45-76頁

【共訳】マリアン・フュッセル「法律家は悪しきキリスト教徒？—近世の専門家批判としての法律家批判」（前田星との共訳）『北大法学論集』70(3)、279-309頁

【書評】櫻井利夫『ドイツ封建社会の城塞支配権』『法制史研究』68、292-297頁

【新刊紹介】Suse ANDRESEN, *In fürstlichem Auftrag: Die gelehrten Räte der Kurfürsten von Brandenburg aus dem Hause Hohenzollern im 15. Jahrhundert*, [Schriftenreihe der Historischen Kommission bei der Bayerischen Akademie der Wissenschaften, Bd. 97], Göttingen, Vandenhoeck & Ruprecht, 2017, 655p.] 『西洋中世研究』11、166頁

[新刊紹介] Johannes LIEBRECHT, Die junge Rechtsgeschichte: Kategorienwandel in der rechtshistorischen Germanistik der Zwischenkriegszeit, [Beiträge zur Rechtsgeschichte des 20. Jahrhunderts, 99], Tübingen, Mohr Siebeck, 2018, 471p.] 『西洋中世研究』 11、181-182 頁

田島篤史 (タジマ アツシ)

「15 世紀アルプス地域の魔術的慣習と悪魔学」小野賢一編『帝国と魔女で読み解くヨーロッパ』(愛知大学人文社会学研究所) 29-58 頁

[共訳] 「イェルク・ヴィクラム『少年の鑑』(1554 年)(6)」『独逸文学』(関西大学独逸文学会) 63、77-89 頁

田中圭子 (タナカ ケイコ)

「コンラート・ツェルティスの書簡作成術」『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』 56、291-302 頁

田中俊之 (タナカ トシユキ)

「14 世紀初頭のスイス中央山岳地域 —モルガルテンの戦い前夜の仲裁裁判文書—」『金沢大学歴史言語文化学系論集 [史学・考古学篇]』(金沢大学歴史言語文化学系) 11、69-90 頁

田辺加恵 (タナベ カエ)

「『クラビホのタンパン』の再解釈」『翻訳の文化／文化の翻訳』(静岡大学人文社会科学部翻訳文化研究会) 14、31-43 頁

田辺清 (タナベ キヨシ)

「レオナルド・ダ・ヴィンチと東方(II)」『東洋研究』(大東文化大学東洋研究所) 213、91-102 頁

田邊めぐみ (タナベ メグミ)

[新刊紹介] Gil Bartholeyns, Monique Bourin et Pierre-Olivier Dittmar (dir.), *Images des soi dans l'univers domestique XIIIe-XVIe siècle*, Rennes Presses universitaires de Rennes, 2018, 『西洋中世研究』 11、167 頁

Laurent Hablot, *Manuel d'héraldique et d'emblématique médiévale*, Tours, Presses universitaires François-Rablais, 2019, 『西洋中世研究』 11、178 頁

寺田龍男 (テラダ タツオ)

「中世ドイツの「後朝の歌」を日本文化の目でとらえなおす」宮崎隆志・松本伊智朗・白水浩信編『ともに生きるための教育学へのレッスン 40—明日を切り拓く教養』(明石書店) 146-149 頁

藤内哲也 (トウナイ テツヤ)

「近代でもなく、社会史でもなく」谷川稔・川島昭夫・南直人・金澤周作編『越境する歴史家たちへ』(ミネルヴァ書房)

「(コメント) 中世後期ロンドンの「外国人」と都市社会」『西洋史学論集』 56

[共訳] フランチェスカ・トリヴェッラート著『異文化間交易とディアスポラ 近世リヴォルノとセファルディム商人』(知泉書館)

[書評] 「中平希著『ヴェネツィアの歴史』」『日伊文化研究』 57

中川久嗣 (ナカガワ ヒサシ)

「南フランス・ロゼール県南部の中世ロマネスク聖堂 (1)」『東海大学紀要 文化社会学部』1、109-130 頁

「南フランス・ロゼール県南部の中世ロマネスク聖堂 (2)」『東海大学紀要 文化社会学部』2、17-33 頁

仲田公輔 (ナカダ コウスケ)

Omens of Expansionism? Revisiting the Caucasian Chapters of *De Administrando Imperio*, in *Trends and Turning Points: Revisiting the Caucasian Chapters of De Administrando Imperio*, ed. M. Kinloch and A. MacFarlane, *The Medieval Mediterranean* vol. 117 (Leiden: Brill), pp. 148-165.

Uxtanes of Sebasteia and Byzantine Armenian Relations in the Tenth Century, *Revue des Études Arméniennes* 38, pp. 167-194.

原田晶子 (ハラダ アキコ)

「中世後期ドイツ都市における教会建設財団 (fabrica ecclesiae) と世俗の教会後見人の活動からの一考察」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』50、171-187 頁

[読書案内]「宗教改革期前後の都市と教会」『歴史と地理 (世界史の研究)』726 (260)、48-51 頁

樋口諒 (ヒグチ リョウ)

Photogrammetry Using Virtual Restoration of Wall-Paintings of the Rock-Hewn Churches in the Göreme Valley, Cappadocia and its Value for the Museum's Contents. *ISPRS Annals of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences* IV-2/W6, pp. 83-89. (with Hirofumi Sugawara & Murat Gülyaz)

The Derivation of the Cross-in-Square Churches in terms of their Interior Tectonic Configuration: The Genealogy of the Cross-in-Square Churches during the Middle Byzantine Period (1). *Japan Architectural Review* 2 (4), pp. 530-544. (with Satoshi Nasu)

「内接十字型教会堂の主要な内部建築構成の地理的分布と地域性: 中期ビザンツ文化圏における内接十字型教会堂の系譜 その2」『日本建築学会計画系論文集』84 (758)、987-994 頁

平野智洋 (ヒラノ トモヒロ)

[史料翻訳・註解]「著者不明『スフランツィス抜粋年代記』—翻訳、註釈と解説」『東海史学』53、63-80 頁

藤崎衛 (フジサキ マモル)

Diplomatic Communication between the Popes and the Khans until 1270s. *Journal of Western Medieval History (Söyang Chungsesa Yöngu)* 44, pp. 69-99.

『歴史家の調弦』(上智大学文学部史学科編、共著、上智大学出版)、担当:「祈りを必要とする教皇たち—中世における教皇の死とメモリア」、pp. 263-281

「西欧・南欧」(2018年の歴史学界—回顧と展望)『史学雑誌』128、322-327 頁

「母、教師、花嫁としての中世ローマ教会」『西洋中世研究』11、31-46 頁

[監修、共訳]「第三ラテラノ公会議 (1179年) 決議文翻訳」『クリオ』33、39-56 頁

[監修]川添愛『聖者のかけら』(新潮社)

[解説]「二十一世紀の宗教を見とおすためのよすが」鈴木宣明『ローマ教皇史』(ちくま学芸文庫)、

舟橋倫子（フナハシ ミチコ）

La vie des religieuses dans les prieurés de Forest et de Grand-Bigard de l'abbaye d'Afflighem(XIIe-début de XIIIe siècle). 『日仏歴史学会会報』 34、pp. 3-21 頁

[翻訳]アレクシ・ウィルキン「11-12 世紀低ロタリングアにおける教会と貧窮者：修道院長と司教による慈善の実像」『比較都市史研究』 37(1-2)、21-30 頁

星野倫（ホシノ ヒトシ）

「キケローの哲学的著作とダンテ—『饗宴』のモデルをめぐって—」『イタリア学会誌』 69、49-72 頁

松根伸治（マツネ シンジ）

「倫理徳の座としての意志—ガンのヘンリクス『任意討論集』第4巻22問」『南山神学』 42、99-121 頁

松本涼（マツモト サヤカ）

「ヴァルハラは理想か？—現代日本と北欧神話」『立命館言語文化研究』 31(1)、189-202 頁

三浦麻美（ミウラ アサミ）

「聖性から聖年へ—敬虔な女性たちから見た中世後期の教皇像の権威強化」『西洋中世研究』 11、64-76 頁

三木勲（ミキ イサオ）

「アルベルティの建築理論における表現媒体を示す言葉と概念についての研究—建築概念の形成に果たした透視図法概念の役割をめぐって—」『日本建築学会近畿支部研究報告集、計画系』 59、497-500 頁

「アルベルティの建築理論における表現媒体を示す言葉と概念についての研究—建築創作上の表現媒体の機能的体系—」『日本建築学会 2019 年度大会（北陸）学術講演梗概集』 897-898 頁

三佐川亮宏（ミサガワ アキヒロ）

[論文]「メールゼブルク司教ティートマル(一〇〇九—一〇一八年)と『年代記』—人と作品」、『東海大学文学部紀要』 109、33-70 頁

[翻訳] ハンス=ヘニング・コーテューム「オットー・ブルンナーとナチズム—「時代を巧みにくぐり抜けて来ました」(中)、『思想』 1138、68-87 頁；(下)、『思想』 1142、127-143 頁

[新刊紹介] Markus Cottin - Lisa Merkel (Hg.), *Thietmars Welt. Ein Merseburger Bischof schreibt Geschichte*. [Schriftenreihe der Vereinigten Domstifter zu Merseburg und Naumburg und des Kollegiatstifts Zeitz, Bd.11], Michael Imhof Verlag, 2018, 『西洋中世研究』 11、173-174 頁

宮崎晴代（ミヤザキ ハルヨ）

「中世のソルミゼーションにおける《Ut queant laxis》と《Trinum et unum》ソルミゼーション・シラブルの成立過程について」『武蔵野音楽大学研究紀要』 50、117-136 頁

「クロージング・コンサート曲目解説、歌詞対訳」、「セミナー課題曲解説、歌詞対訳」『Tokyo Cantat 2019』 50、53、92-106 頁

「プログラム解説」『中世音楽合唱団 第70回定期演奏会』5月、トッパンホール

「名曲シリーズ No.48 へのアプローチ」『ハーモニー第 188 号』（全日本合唱連盟）4 月、70 頁

向井伸哉（ムカイ シンヤ）

「中世フランスの政治構造」『歴史と地理 世界史の研究』728、44-47 頁

村上寛（ムラカミ ヒロシ）

Contribution of Women and Con-viviality indicated by Mary Magdalene in *the Mirror of Simple Souls*. Jean Miyamoto (ed.), *Contribution of Women to Con-viviality--In/Ad Spiration to Convivials*, pp. 154-171.

村田光司（ムラタ コウジ）

Procopius in the Far East: Japanese Language Studies and Translations. in G. Greatrex (ed.), *Recent Work on Procopius outside the English-speaking World: A Survey*, Newcastle upon Tyne, 2019, 16.1-13.

[新刊紹介]「Eleanor Dickey, *Learning Latin the Ancient Way: Latin Textbooks from the Ancient World*, Cambridge, Cambridge University Press, 2016」『西洋中世研究』11、174-175 頁

八木健治（ヤギ ケンジ）

「羊皮紙をつくろう」『PETAL 知識の花弁』（慶應大学三田メディアセンター）15、3-4 頁
[翻訳] ダニエラ・ガイダーノ『ガット弦の変遷』（私家版）

安元稔（ヤスモト ミノル）

『イギリス歴史人口学研究—社会統計にあらわれた生と死』（名古屋大学出版会）

山田雅彦（ヤマダ マサヒコ）

「中世初期コルビー修道院（北フランス）の貨幣—構築された貨幣史のもつれ—」『史窓』（京都女子大学史学会）76、1-20 頁（117-136 頁）

百合草真理子（ユリクサ マリコ）

「ラファエッロ作《サン・シストの聖母》に関する—考察—ピアチェンツァ、サン・シスト聖堂の天井・壁面装飾を視野に入れて」『美術史』（美術史學會）187、54-71 頁

頼順子（ライ ジュンコ）

[共訳]スティーヴン・スレイター『【図説】紋章学事典』（創元社）

[書評]「坂上康博・中房敏朗・石井昌幸・高嶋航編著『スポーツの世界史』」『パブリック・ヒストリー』16、89-93 頁

横山安由美（ヨコヤマ アユミ）

「ロベール・ド・ボロンにおけるアーサー王像と政治思想について」渡邊浩司編『アーサー王伝説研究 中世から現代まで（中央大学人文科学研究所研究叢書 71）』（中央大学出版部）、79-106 頁

吉川文（ヨシカワ アヤ）

「フクバルドの『音楽論 Musica』におけるアルファベットの音名表記—ケンブリッジの Gg.V.35 写本

での表記を中心に—」『東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系』71、41-56 頁

[新刊紹介] James Cook, Alexander Kolassa & Adam Whittaker (eds.), *Recomposing the Past: Representations of Early Music on Stage and Screen* [Ashgate Screen Music Series]. 『西洋中世研究』11、172-173 頁

渡部武士 (ワタナベ タケシ)

[紹介] Jessalynn L. Bird (ed.), *Papacy, Crusade, and Christian-Muslim Relations*, Amsterdam, 2018, 254p. 『西洋史研究』新輯48、85-93 頁

渡邊裕一 (ワタナベ ユウイチ)

「中・近世のニュルンベルク帝国森林と政治諸権力—帝国都市とブランデンブルク辺境伯の対立構造を軸に」松沢裕作編『森林と権力の比較史』(勉誠出版)、205-236 頁

「災難の後に—ペストが流行れば金貸しが儲かる?」福岡大学人文学部歴史学科編『18 歳からの歴史学入門』(彩流社)、149-164 頁

「[コラム] アウクスブルクの平和祭—宗教戦争の記憶と宗教平和の祈り」福岡大学人文学部歴史学科編『18 歳からの歴史学入門』(彩流社)、146-147 頁

[翻訳] 「[史料解題・翻訳] アレクサンダー・ベルナーの救貧制度調査報告記 (2) —ニュルンベルク—」『エクフラシス』9、68-74 頁

[書評] 「踊共二編著『記憶と忘却のドイツ宗教改革—語りなおす歴史 1517-2017—』」『西洋史学論集』56、44-47 頁

[書評] 「アルフレート・ハーファーカンプ著、大貫俊夫・江川由布子・北嶋裕編訳、井上周平・古川誠之訳『中世共同体論—ヨーロッパ社会の都市・共同体・ユダヤ人』」『史林』102 (5)、94-100 頁